

学校教育目標・めざす児童の姿	今年度の重点目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
進んで学び 豊かな心をもって たくましく生きる子 <めざす姿> 自ら気づき 友と考える のびのびと表現する子ども	○かしこく《学力向上》 問いをもち 友とかかわりながら 追究する子	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの関係で制約はあるものの、密になることを避けながらグループで話し合い活動をしたり、製作や作業などの活動を友達と協力し合ったり、工夫しながら学習に取り組む事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の感染警戒レベルを見ながら、さらに子どもたち同士が関わり合い追究できる活動はないか模索し、新しい活動の場を広げていきたいと考えている。</li> </ul>
	○やさしく《関係力向上》 相手のことを考えて 行動できる子	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会が行えない中、6年生がテレビ放送を活用し、「1年生を迎える会」に替わる企画番組を、心を込めて制作することができた。</li> <li>異学年交流が難しい中、交流方法を工夫しながらなかよし学級で名刺交換をすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの関係で、例年に比べ友達同士の密な関わり、助け合いが難しい状況にある。特に異学年との交流が難しい状況にある。道徳教育で心情面の育成を図るとともに、この状況の中でもできる交流の場を工夫し計画していきたいと考えている。</li> </ul>
	○たくましく《体力向上》 身心共に健康で 粘り強く取り組む子	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校でウイルスの感染拡大防止に向けて、手洗い、消毒、マスク着用にしっかり取り組むことができた。</li> <li>児童へのアンケート調査では、「休み時間や体育では元気よく遊んだり運動したりできているか」という質問に対し、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた児童が合わせて89%であった。元気よく、活発に活動している児童の姿が多く見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度は体育で十分に運動ができない状況もあり、体力が低下している児童も見られる。また、授業中の正しい姿勢を保持することが困難な児童もいる。「身体みがき体操」で体幹を鍛え、柔軟性が増すようにしたい。講師を招いて直接指導を受ける講習会やみがき集会が行えるようになってきたので、今後さらに継続した取り組みができるようにしていきたい。</li> </ul>

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策・向上策
教育活動	教育課程	◇運動(身体みがき),ドリル(頭みがき),表現(声みがき),人権(心みがき)の実践と評価	日課の中に位置づけ,実態に応じた内容で全校で実施し,伸びを評価できたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「頭みがき」を週3日にし,教科学習に取り組む時間を増やした。4月,5月の休業期間中できなかった授業の補習時間として日課の中に位置づけることができた。集中して学習するリズムが身につけてきた。</li> <li>「頭みがき」としてM I Mに取り組む学習活動もあった。「言葉」への関心が高まり,語彙が増えてきたようだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校一斉に時間を確保することができなかったため,「身体みがき」の取り組み方に学級差が出てしまった。今後はどの学級でも継続的に取り組み,時々柔軟性などを評価して成果が実感できるようにしたい。</li> </ul>
		◇特別支援教育の考え方と手法を取り入れた指導	掲示,発問,環境の工夫,個別の指導計画の活用,学校内外との連携により個に応じた指導が行えたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童へのアンケート調査では,「先生の授業はわかりやすいか」という質問に対し,「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた児童が合わせて95%であった。視覚支援を多く取り入れながら,個に応じた指導ができた成果と思われる。</li> <li>職員間で連絡を取り合いながら個別指導にあたることができた。特に支援員との連携が個別指導にあたる上で有効であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者とともに「個別の指導計画」の前半の評価を行い,成長した点を認めるとともに後半の課題を決めだして取り組んでいきたい。</li> </ul>
	学習指導	◇基礎学力の定着と活用・表現力の向上	基礎を繰り返す「頭みがき」を中心にしながら基礎学力の定着が図れたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字学習を継続的に行うことで,授業時間削減に対応した学習時間の確保ができた。</li> <li>テストで理解が不十分だった内容の復習にあてることができた。</li> <li>高学年になるほど,「頭みがき」による成果が実感できていない傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も継続して取り組みたいと考えている。特に高学年は内容や評価を工夫し,児童自身が伸びを実感できるような学習にしていきたい。</li> </ul>
		繰り返しの「声みがき」を中心としながら,自己表現力の向上を図れたか。		<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度は取り組むことができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の所,後期も「声みがき」の取り組みは予定していない。</li> </ul>	
読書の積み重ねや読み聞かせを通して,本に親しむ子どもの姿が見られたか。		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査では児童の82%が「読書が好き」と答えている。</li> <li>密を防ぐため,書画カメラを使っての読み聞かせではあるが,子どもたちは楽しみにしており,読書への意欲を高めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期はP T A有志による「ぶんぶんぶん」の読み聞かせができなかった。今後,読み聞かせの機会が増えることで,読書に対する興味・関心が高まることを期待している。</li> </ul>		
家庭学習ノート「紡ぐ」を活用し,家庭学習の習慣を身につけることができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「紡ぐ」を書くことで,宿題の確認ができる点はよい。</li> <li>「紡ぐ」に保護者のサインや子どもに向けた言葉が書いてあると,それを励みに頑張る児童も見られた。</li> <li>「紡ぐ」の記入に個人差があり,十分に活用できていない面もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「紡ぐ」の学習時間やメディア時間の記入ができていない児童には指導していくとともに,家庭にも取り組みの協力をお願いしていく。</li> </ul>			

教育活動	生活指導	◇あいさつと交流による敬意に基づく集団の形成	あいさつ運動や異学年との交流、西小アドベンチャーなどを通して、子ども同士の繋がりを深めることができたか。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年で、児童から気持ちのよいあいさつのできる子が増えてきた。</li> <li>児童会活動として6年生が各教室を回ってあいさつ運動をしたことで、嬉しそうにあいさつを交わす姿が見られてよかった。</li> <li>児童へのアンケート調査では、「自分から大きな声であいさつをしているか」という質問に対し、「そう思う」が37%、「だいたいそう思う」が39%と、あいさつに対しやや消極的な傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな声を掛け合うだけでなく、目と目を合わせた会釈とか、うなずき合いなど、他の気持ちがつながる方法を取り入れてみることも考えたい。</li> <li>本年度は異学年での交流活動が大きく制限されているが、内容や方法の工夫を考え、少しでも児童同士の繋がりが増えるようにしたい。</li> </ul>
			生活科や総合的な学習を通して、地域の理解や繋がりを深められたか。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>「町たんけん」の学習を通して地域に目を向けることで、今まで知らなかった地域のこともっと知りたいという学習意欲の高まりが見られた。</li> <li>本年度は、地域の方々と触れ合う機会や地域へ見学に行くことが難しい状況にあり、年度当初の計画通りには学習活動が進まなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々と関わる機会は少ないかもしれないが、児童が気づいていない地域との関わりを教えたり、感謝の気持ちをもてるように指導していきたい。</li> </ul>
	◇心と身体みがき	「身体みがき運動」を中心に身体の健康の維持や向上を図れたか。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>密になるため「身体みがき」集会在体育館で行うことができなかった。しかし、テレビ放送やクラス毎の「みがき指導」で、体操を学ぶ機会がもてた。</li> <li>朝の会と体育の準備体操で、継続して取り組むことができたクラスもある。</li> <li>例年行っている「身体みがき講習会」を実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童にとっては、身体を動かす活動や機会が少なかったことが、アンケート調査での充実感の低下につながっていると思われる。後期は、校庭や体育館でもっと身体を動かす活動を増やしていきたいと考える。</li> </ul>	
学校運営	地域との連携	◇地域の素材・人材を活用した教育活動	地域の素材・人材と関わりを持った学習活動が展開できたか。(地域探検、社会科見学、米作り等)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生の地域探検、3年生の社会科見学でのりんご農家見学、4年生での廃油石けん作り、5年生の米作り等、制約のある中でもできる活動を模索しながら活動することができた。新しい見学場所を探したり、活動方法を工夫して学習を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しく、地域の素材や人材を学習活動に取り入れることができないか模索していきたい。選択肢を増やすことで、可能な学習活動を見つけていきたい。</li> </ul>
		◇信州型コミュニティスクールの推進と学校支援ボランティア活動	地域と連携した学校支援ボランティアを組織し、活用するとともに、広く広報できたか。(見守り隊、読み聞かせ、米作り、高原学習等)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り隊の方々には、子どもたちの様子を気にかけてながら安全な登下校を見守っていただいている。</li> <li>米作りでは、密にならないように配慮し、マスクを着用して田植えや稲刈りを行ってきた。保護者の方々のボランティアも大勢参加していただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年の特別な状況を学校支援ボランティアの方々にも理解していただいている。少しずつではあるが、子どもたちとボランティアの方との関わりも増えてきた状況にある。今後もこの方向で増やしていきたい。</li> </ul>
	研修	◇学習指導の充実や児童理解を深めるための研修や地域保護者との信頼を深めるための研修	授業研究会や生徒指導研修会、非違行為防止研修会を継続的に行い、職員の意識を高めることができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程研究協議会が中止になったり、研修会などの予定が大きく変更になったが、全校研究授業では教室内が密にならないように参観職員を半分ずつ、時間差をつけて研修する等の工夫ができた。</li> <li>児童理解の研修会では、少人数のグループで意見交換し、より語り合う場を大切に実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域保護者との信頼を得るために、感染拡大防止に努めながら、学校を開放する場を増やしていきたい。ホームページでの発信を継続しながら、オンラインの利用なども検討したい。</li> </ul>

評価：A「十分に達成された」 B「おおむね達成された」 C「やや達成されなかった」 D「達成されなかった」を表しています。

：9月に第1回児童アンケート、教職員アンケートを実施し、その結果を考察して今後の取り組みを決めだしています。